

3学年保護者の皆さまへ

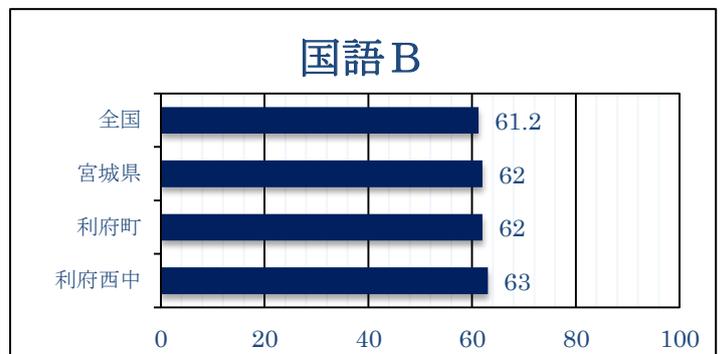
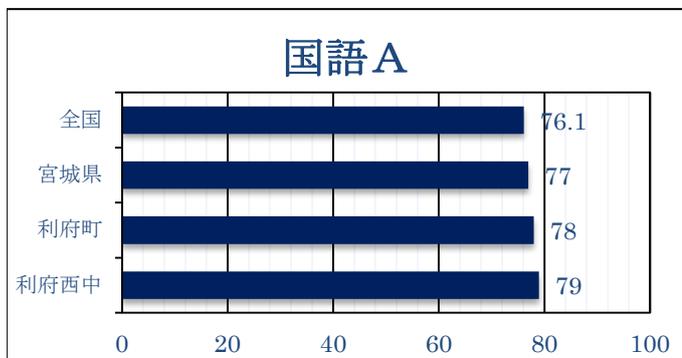
利府町立利府西中学校
校長 菅原 裕

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

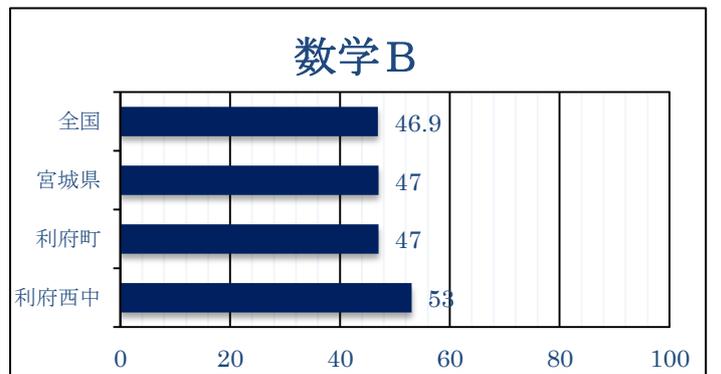
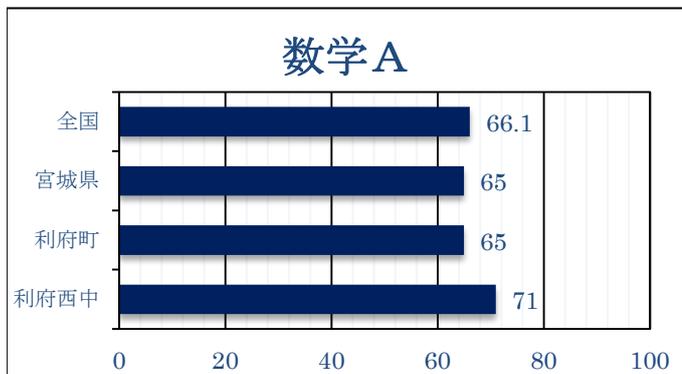
4月17日（火）に、全国の公立中学校に通う3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が7月下旬に発表されました。これに基づいて、この度、本校の生徒の学習や生活の状況について、良さや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。なお、個人票もあわせてお渡しいたしますのでお読みいただき、お子さまの進路の実現に向けた、これからの学習と生活の改善に役立てていただきますようお願い申し上げます。

1. 学力調査の結果

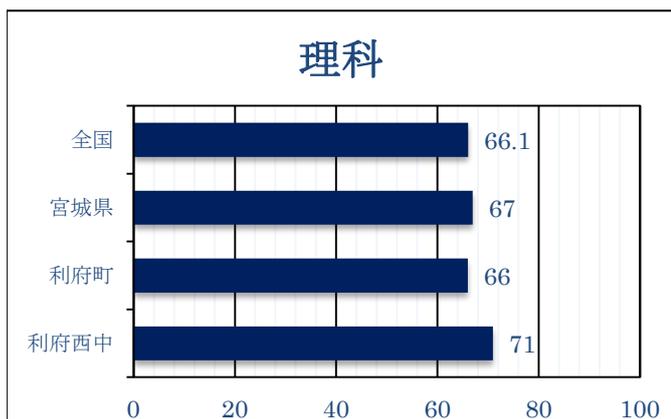
(1) 国語（国語A：主に知識に関する問題、国語B：主に活用に関する問題）平均正答率%



(2) 数学（数学A：主に知識に関する問題、数学B：主に活用に関する問題）平均正答率%



(3) 理科平均正答率%



下に示したのは、教科ごとの「○良好な点」と「■課題点」です。

【国 語】

- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題については、全国平均を大きく上回り、高い正答率でした。
- グラフからわかることを文章中の説明から選択する問題や、質問の意図を選択する問題などが全国平均を下回り、課題といえます。

【数 学】

- すべての領域で全国平均を上回りました。観点別に見ると、数学的な見方・考え方の正答率が高いことが分かりました。
- 数量の大小関係を不等式に表すことや、一次関数の意味について理解することが比較的弱い傾向があります。
また、B問題については、事象を数学的に解釈して説明する力が弱いことが課題といえます。

【理 科】

- すべての領域において全国・県平均を上回りました。領域別では物理分野、観点別では自然事象についての知識・理解の正答率が高い傾向が見られました。
- 全国の傾向と同様に、オームの法則を使って抵抗を計算する問題や植物の現象を、これまでの知識を活用して説明する問題に課題があるといえます。

2. 今後の取組について

【国 語】

週末課題での新出漢字の確認に加えて、小学校において学習した漢字についての復習も行う。また、落ち着いて文脈をたどって読み取らせる課題や、互いの意見を聴きつつ自分の意見をまとめ、発表させる場面を授業の中で構築するよう努めます。

【数 学】

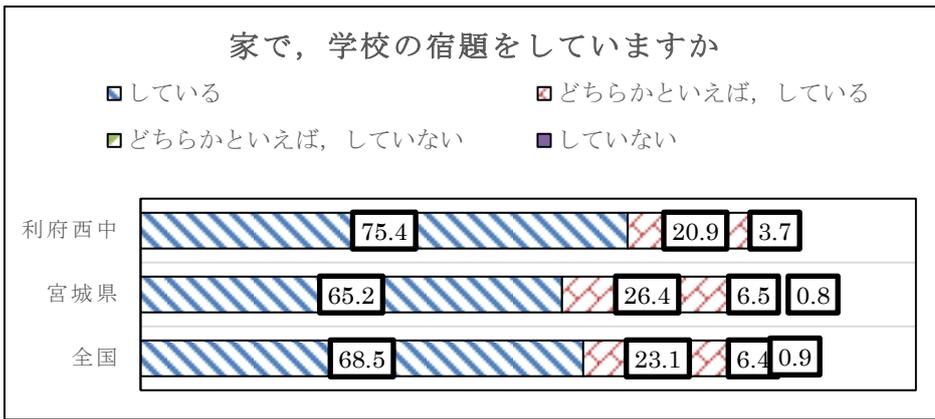
授業において思考力の育成を意識した課題設定と、数学的用語を用いた表現活動を取り入れます。また、学び合い学習を効果的に取り入れ、授業を通して質問しあえる関係性の構築も目指します。

【理 科】

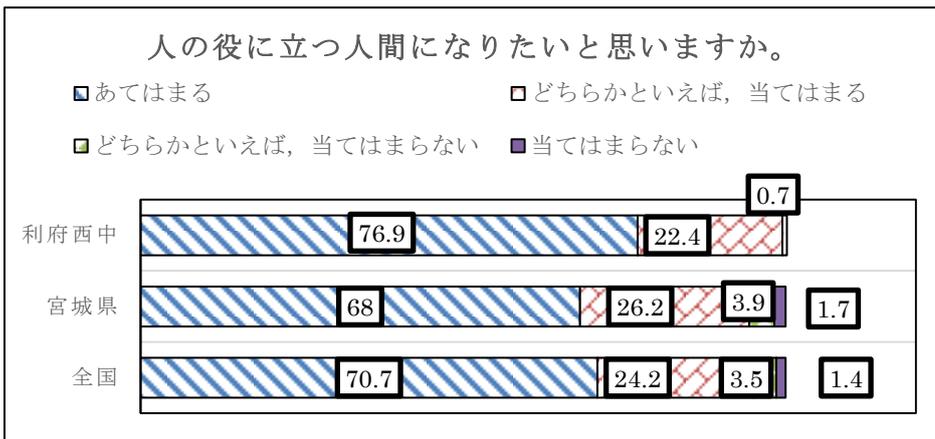
授業では、観察・実験の事例を多くし、より多くの体験や経験を積ませていきます。また、日常生活の事象との関連を多く取り入れ、生徒の興味・関心を高める工夫をしていきます。科学的な思考力を高めるため、実験の仮説を立てることや実験後の考察に力を入れ、言葉や文章で説明できる力を育成していきます。

3 学習状況調査の結果から

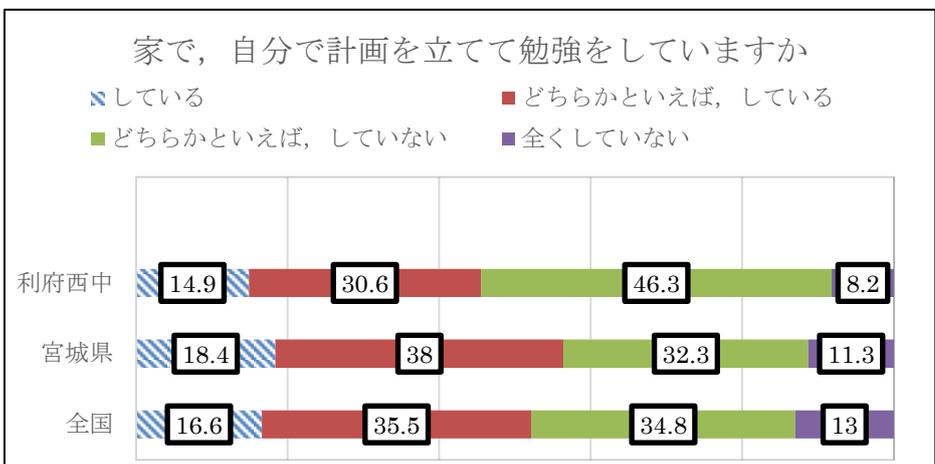
(1) よい傾向が見られる項目



家庭では、学校で出された宿題はしっかりと行っていました。宮城県や全国と比較しても、「常に行っている」生徒と「どちらかといえば、している」生徒で 96%に達しています。与えられた課題に対し、確実にを行う習慣は身に付いています。



西中の生徒はほとんどの生徒が「人の役に立ちたい」と考えています。相手の気持ちになって考えることができ、優しく親切で、困っている人に手をさしのべることができる生徒を今後も育てていきたいと思っています。



家庭では学校から出された宿題はしっかりと行っているものの、それ以外については行っていないという生徒が半数を超えています。これから入試に向け、ゴールを意識して計画的に学習する必要があるので、学校で指導していきます。

(2) 改善が必要と思われる項目